

会 議 録

会議の名称		令和6年度第1回洞峰学園コミュニティ・スクール協議会		
開催日時		令和6年5月28日（火）開会 14:30 閉会 16:30		
開催場所		つくば市立二の宮小学校 NINO ラボ		
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	樋口直宏（会長）、竹内 崇（副会長） 加藤千里、鈴木宏之、柳沢逸夫 高野和直、長久保 翠、村岡敬子、伊藤哲司 谷田部東中学校：校長 永井英夫、教頭 坂 匡浩 教務主任 清水研志 小野川小学校：校長 大高純子、教頭 芳賀千重 教務主任 村田晴美 二の宮小学校：校長 高木素子 教頭 宮田路子 教務主任 小松勝之 東小学校：校長 横田康浩、教頭 坂入敏江 教務主任 井上宏実		
	その他			
	事務局	教育総務課課長：山岡めぐみ 生涯学習推進課参事：山口健次 生涯学習推進課課長補佐：瓜阪恵理名 生涯学習推進課係長：飯島遊 社会教育主事：村上和宏 地域連携教育指導員：酒井和宏		
公開・非公開の別		☐ 公開 ☐ 非公開 ☒ 一部非公開	傍聴者数	0人
非公開の場合はその理由		つくば市情報公開条例第5条第1項（個人情報）に該当する情報が含まれるため		

議題		1 学校運営の基本方針について	
		2 各学校の教育活動の紹介	
		3 熟議「学校評価をもとに学園の共通課題を考える」	
		4 その他	
会議録署名人			確定年月日
			年 月 日
会議次第	1	開会	
	2	授業参観	
	3	任命書交付	
	4	教育長挨拶	
	5	説明事項	
		つくば市のコミュニティ・スクールについて	
	6	会長・副会長の選出	
	7	協議	
		(1) 学校運営の基本方針について	
	(2) 各学校の教育活動の紹介		
	(3) 熟議「学校評価をもとに学園の共通課題を考える」		
	(4) その他		
8	閉会		

<審議内容> 1 開会 事務局：ただ今から、令和6年度第1回 洞峰学園コミュニティ・スクール協議会を開会いたします。 はじめに、つくば市コミュニティ・スクール協議会に関する規則第6条第2項では、「会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。」としております。本日の出席委員数は20名であることから、会議が成立していることをお知らせいたします。 会議を進行するに当たり書記を決めたいと思います。事務局案として二の宮小学校 小松 勝之先生にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。 参加委員：お願いします。 事務局：お引き受けくださりありがとうございます。よろしくお願いします。 初めに授業参観となります。（授業参観） 授業参観はいかがだったでしょうか。 2 任命書交付 事務局：始めに「任命書」の交付をいたします。任命書の交付は五十音順で代表者1名とさせていただきます。なお、森田教育長は欠席となります。代わりまして教育総務課課長、山岡が代理で行います。伊藤委員お越しく下さい。 （「任命書」を伊藤委員に交付） 続きまして、地域学校協働活動推進員の御紹介と委嘱状の交付を行わせてい

たきます。

洞峰学園で、学校と地域をつなぐパイプ役となる地域学校協働活動推進員を協議した際、地域学校協働活動の推進に熱意と識見を有する者として木村敦至委員、高野和直委員、竹内崇委員、長久保翠委員、村岡敬子委員、柳沢逸夫委員を洞峰学園から御推薦いただきました。地域学校協働活動推進員設置要項第3条に該当するものとして、「地域学校協働活動推進員」を委嘱させていただきたいと思います。委嘱状の交付は、五十音順で代表者1名とさせていただきます。（「委嘱状」を高野委員に交付）

ありがとうございました。お席にお戻りください。

なお、この会議において皆様は、非常勤特別職として任命され任期は1年となり、任期は今年度末までとなります。また、守秘義務等の責務がございます。御留意ください。

皆様の任命書については、机の上にございますので御確認ください。委員の皆様のご自己紹介に関しては、この後お時間を取らせていただきます。御了承ください。

3 挨拶

事務局：続きまして、つくば市教育長森田から挨拶を預かっておりますので、教育総務課課長 山岡が代読いたします。

山岡：森田教育長の挨拶を代読させていただきます。

本日はお忙しい中、第1回洞峰学園コミュニティ・スクール協議会に参加していただきありがとうございます。また、委員の皆様におかれましては当協議会の委員を快くお引き受け頂き、深く御礼申し上げます。

本年度、洞峰学園においては、法に基づいた協議会を設置し、「コミュニティ・スクール」が本格始動します。昨年度1年間の推進会議を通じて、目指す児童・生徒の姿や、学校と地域が子どもたちのためにどのような協力ができるかを、時間をかけて話し合っていたいただいたことと思いますが、その話し合いを基に、より具体的な議論を深めていただければと思います。

コミュニティ・スクール協議会の設置は、ゴールではなく、スタートラインであり、また、すぐ目に見える成果が出るとも限りません。しかし、委員の皆様のを力を合わせ、未来を担う子どもたちのために何ができるのかを考えていくことで、必ず、それぞれの学校の実情にふさわしい地域との連携の在り方が生まれてくるものと感じております。

参考として、つくば市のモデル地域として、令和4年度から先行的に「コミュニティ・スクール」を導入した吾妻学園の取組を紹介させていただきます。吾妻学園では、昨年度、地域学校協働活動推進員のコーディネートにより、「ようこそ先輩」と題する卒業生や地域住民による授業を、キャリア教育の一環として実施しました。既存の枠組みを活用した地域学校協働活動の事例として、参考にしていただければと思います。

複雑化・多様化する社会の中で、子どもたちがこれからの時代を生き抜く力を育成するためには、つくば市教育大綱の理念にもあるように、保護者・学校・

地域・行政が協力し、社会全体で子どもの育ちの場を支えることが必要不可欠となります。委員の皆様におかれましては、つくば市の教育の充実に向け、今後ともどうぞ御協力をよろしくお願いいたします。

それでは、初めての協議会ですので、自己紹介をお願いいたします。（各委員、自己紹介）

4 説明事項

事務局：社会教育主事の村上より「つくば市コミュニティ・スクールについて御説明させていただきます。

事務局(村上社会教育主事)：社会教育主事 村上と申します。よろしくお願いいたします。わたくしのほうからは、

- 1 つくば市の教育が目指すもの
- 2 コミュニティ・スクールとは
- 3 つくば市で進めるコミュニティ・スクールとは

について御説明いたします。

まず、つくば市の教育が目指すものについて御説明いたします

配付されている教育大綱の冊子を手にとっていただき、1ページをお開きください。つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を送ることを最上位の目標に設定しています。次に7ページをお開きください。いま必要なことの中に、保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体で子どもたちの育ちの場を支えることを位置づけています。

教育大綱に基づいたコミュニティ・スクールの導入をすることにより、今後地域の多くの人々が学校づくりに参画し、地域と一体となり、地域とともにある学校づくりを進めて行きたいと考えています。つくば市の学校教育を所管している学び推進課からは、「学び推進方針」を学校に示しています。みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園にするために、今年度特に意識していることは、子どもたちの「自己決定」ができる環境を整えていくことです。また、学び推進課では「伴走から自走」というスローガンのもと、各学校が生き生きと自走していけるように日々関わっています。

続いて、コミュニティ・スクールについて御説明いたします。具体的にコミュニティ・スクールとはどのようなものかをご説明いたします。コミュニティ・スクールとは、一言で言いますと「地域とともに子どもを育む学校」と言えます。コミュニティ・スクールのコミュニティは地域住民・保護者・学校であり、それらが、力を合わせて子どもたちの成長を支えていく学校のことをコミュニティ・スクールと呼んでいます。踏み込んだ話をさせていただきますと、つくば市ではコミュニティ・スクール協議会という話し合いの場を設置している学校をコミュニティ・スクールと呼んでいます。

洞峰学園は今年度、協議会と言って、法に位置付けられたコミュニティ・スクールの本格設置となります。

スライドでお示ししているのが、コミュニティ・スクール協議会の様子です。右上、校長先生が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明をし

ています。中段、下段の写真、熟議を行っています。

さて、それではなぜコミュニティ・スクールが必要なのでしょう。現在、学校では「いじめ、不登校」「教員の業務量増加」、地域では「地域社会における支え合いやつながりの希薄化」など、様々な課題が挙げられます。また、新学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有することが大切であると書かれています。

これらのことから、学校と地域の課題を解決するために、学校と社会が目標を共有したり、地域と学校が連携して幅広い視点で子どもたちの成長を支えたりする必要があるのです。

それでは、具体的につくば市で進めるコミュニティ・スクールについて御説明いたします。つくば市コミュニティ・スクールには、スライドでお示ししている4つの機能があります。

①の機能として、学校運営の基本方針についての承認があります。

学校運営協議会では第1回目に学園長・学校長が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明を行います。その基本方針に対して委員の皆様から承認を行うことからコミュニティ・スクール協議会がスタートしていきます。ただし、学校運営の責任者は校長であり、コミュニティ・スクール協議会が校長の代わりに学校運営を決定・実施するものではありません。

②の機能としては、学校運営に意見を述べるということです。これから始まるコミュニティ・スクール協議会では、皆さんの様々な視点から御意見を頂ければと思っています。

③の機能として教職員の任用について意見を述べるができます。教職員の任用とは、学校とコミュニティ・スクール協議会が実現しようとする教育目標等に適った人材を求めることです。例えば、学年主任ができるリーダー性のある教員や外国語活動に力を入れたいので、授業力のある教員を求めることなどです。

④の機能として、学校評価があります。委員の皆様と学校の課題について共有したり学校評価について話し合ったりということをしていきます。

先ほども申し上げましたとおり、洞峰学園は今年度協議会という法に基づいた本格設置となります。

委員の立場としても特別職の地方公務員となり、スライドにお示ししているような責任のある立場となっていくしますので、御協力をお願いいたします。

先ほど、「熟議」という言葉が出てきましたので、「熟議」について御説明いたします。「熟議」とは、どのような子どもを育てたいのか、何を実現したいのか、という目標・ビジョンを共有するために、「熟慮」と「議論」を重ねることを言います。ひとことで言うと「よくよく、話し合う」ということです。

熟議では、テーマに対して、委員それぞれの考えを付箋に記し、模造紙に貼り付けていくというスタイルが多いです。熟議に参加する委員の方が、必ず意見を会議に反映させてほしいという意図のもとこのようなスタイルをとっています。

スライドでお示ししているのは、コミュニティ・スクールを自転車に例えた

イメージ図です。自転車で例えるならば、協議会で話し合った内容が前輪およびハンドルとなり、「育てたい児童・生徒像」やコミュニティ・スクールの在り方などの方向性を決める役割を担っています。そして後輪には、地域学校協働活動が位置付けられます。地域学校協働活動とは、地域と学校が連携・協働して行う様々な活動のことです。コミュニティ・スクールでは、前輪の協議会で方向性が決まったものに対して、それを後押しするように地域と学校が連携して様々な活動を行っていきます。この地域と学校との連携をスムーズに行うのが、地域学校協働活動推進員の役割です。学校の教育活動に対して地域学校協働活動を進めていくことで、この自転車がスムーズに進むようになります。自転車がスムーズに進むようになるときには、今まで以上に学校と地域が連携し、学校を核とした地域づくりにつながっていくはずです。

地域学校協働活動の例を一つ御紹介いたします。昨年度、吾妻学園では、「ようこそ先輩」という学習において、ゲストティーチャーを地域学校協働活動推進員の方がコーディネートした授業を行いました。このように、地域学校協働活動が活発になると、地域の方々の関わりが、児童生徒の幅広い視野をもつことにつながります。また、地域の方々と関わることで、学校で学んでいることが社会でどのように役立っているかを理解することにもつながります。これまでは先生が中心となってコーディネートしていたのが、今後は地域の方の力も借りて成立するようにしていきたいと考えています。新しいことをやらなくてもよいのです。運営協議会の中で、何が必要か、何をしていくべきかについて地域と学校が熟議し、ともに作り上げていくこと大切です。既存のものをベースに、まずは、「学校理解」「地域理解」から進めていければと思います。

今日お伝えしたいことをまとめます。

- ①つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を最上位の目標としていること
- ②コミュニティ・スクールは地域とともに子どもを育てる仕組みであること
- ③つくば市のコミュニティ・スクールには4つの機能・役割があること
- ④熟議を通して皆が共有することが大切であるということ
- ⑤地域と学校が連携した様々な活動、地域学校協働活動が始まることです。

つくばの未来の創り手となる子どもたちのために御協力をよろしくお願いいたします。以上になります。

事務局：ただ今の件につきまして、意見や質問はありますか。（意見・質問無し）

5 会長・副会長の選出

事務局：協議の前に、会長と副会長の選出を行いたいと思います。選出につきましては、つくば市コミュニティ・スクール協議会に関する規則の第5条第2項に「会長及び副会長は、委員の互選により定める。」とあります。

事務局としては、昨年度、座長として活動していただいた樋口委員、推進会議の構成員として活動していただいた竹内委員は引き続き協議会委員になって

いただいているので、会長を樋口委員に、副会長を竹内委員にお願いしたいと提案させていただきたいと思います。皆様いかがでしょうか。

参加委員：（拍手）

事務局：それでは、お二方よろしくお願ひいたします。

6 協議

(1) 学校運営の基本方針について

樋口会長：それでは、各学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明及びグランドデザインを受けての特色ある教育活動について、各学校より御説明をお願いします。

小野川小学校（大高校長）：小野川小学校グランドデザインの説明

・昨年度の学力診断テスト結果を受けて要旨を捉える力、目的や意図に応じて伝える力、相手に伝わるように話の構成を考える力に課題がある。

・夢や希望をもって未来に向かって生きることが難しい。

・何のために学習をしているのかを大切にしていきたい。

・自主学習の変革、自分に適した学習方法の開拓を進めていく。

・リーダーシップを発揮する場面を増やしていきたい。自分なりの考えをもっている児童は多い。

・何かしら学校の力になりたいと考える児童もいる。

・児童の意見・アイディアを生かす学校づくり。

・「おの」ずとかんがえ 「が」 んばれば 「わ」 かってくるよ

・教職員が「できる」ことが、子どもたちに伝えられる前提である。

・サステナブルな働き方、ワークライフバランスを考えた働き方を進める。

二の宮小学校（高木校長）：二の宮小学校グランドデザインの説明

・この学校でよかったと思える楽しい学校を目指している。

・笑顔と元気、対話で学ぶ楽しい学校にしていきたい。

・にこにこ、のびのび、みんなでみとめあい、やりぬく心さいごまでを大切にしたい。

・対話、ルールメイキングの重視

・子どもたちが対話できる機会を教師が設ける

・教科担任制を推進し、1人の子どもに関わる教師を増やす。

・学校として不足している部分をコミュニティ・スクールで補いたい。

東小学校（横田校長）：東小学校グランドデザインの説明

・課題…聞く力。伝えることはできるが、相手の考えとの折り合いをつけることが課題 → 傾聴を大切に「聴く」をベースに教育活動を見直す。

・「自分たちの生活をよりよくするために、他人と協働しながらいかに最適解を見つけるか」に力を入れる。

・みんなでよりよい学校生活をつくる→「自分達で」よくしていく。

- ・互いの価値観を尊重しながら解決策を見つける。
- ・「みんなが楽しい学校」がテーマ
- ・自分達にどんなことができるかを2年生以上で考えている。
- ・宿題を自分で決める。
- ・学校支援ボランティアを活用し、授業に入ってもらっている。

谷田部東中学校（永井校長）：谷田部東中学校グランドデザインの説明

- ・3年前の生徒の半数が「夢や希望をもてない」と回答している。
- ・コロナが明け、少しずつ「夢や希望をもっている」生徒の割合が上がっている
- ・自分だけ頑張ればよいという考えの生徒が多い印象がある。
- ・友達とコミュニケーションをとる→対話を核とした教育活動を行っていきたい。
- ・夢や目標をもちつつあるが、やり抜こう、さらに高めようという気持ちが弱い→非認知能力を高めるために独自の「生活ノート」を作成

（2）各学校の教育活動の紹介

小野川小学校（芳賀教頭）：小野川小学校の説明

- ・元気いっぱいな子ども
- ・地域との連携も強い→1～4年生での芋苗、5・6年生での田植え
- ・今後、餅つき体験、地域への感謝の会を実施予定

二の宮小学校（小松教務主任）：二の宮小学校の説明

- ・地域・保護者の仕事紹介等、キャリア教育での関わり
- ・保護者ボランティア（日本語指導、読み聞かせ、二の宮工務店等）を積極的に活用

東小学校（坂入教頭）：東小学校の説明

- ・学校支援ボランティア、家庭科調理ボランティアの活用
- ・昨年度は72名のボランティアが参加

谷田部東中学校（坂教頭）：谷田部東中学校の説明

- ・生徒は全体的に落ち着いて生活している
- ・登校渋り、不登校生徒に関する課題が見られる。→ソーシャルスキルトレーニングの実施
- ・部活動の地域完全移行を目指している
- ・職業体験等で地域と連携をしている

樋口会長：先生方、御説明ありがとうございました。先ほど教育局から説明がありましたように、コミュニティ・スクール協議会の機能の一つに、「校長が作成する学校運営の基本方針の承認」があります。委員の皆様にグランドデザインへの承認をお願いしたいと思います。令和6年度学園・各校のグランドデザ

インを御承認いただける方は拍手をお願いいたします。

参加委員：(拍手)

樋口会長：ありがとうございました。校長先生方におかれましては、本内容にて学校運営をお願いいたします。

(3) 熟議

樋口会長：続いて、熟議に移りたいと思います。ファシリテーターを谷田部東中学校の坂教頭先生をお願いしてよろしいでしょうか。

坂教頭：はい。よろしくお願いします。

樋口会長：お引き受けくださりありがとうございます。では、坂教頭先生よろしくお願いします。

坂教頭：熟議のテーマは「学校評価をもとに学園の共通課題を考える」です。前回の会議で、委員の方から「学園内の学校で、共通の評価項目があるとよい」という意見をいただきました。そこで、学園で共通した学校評価アンケートの項目を考えていただきたいと思います。熟議の時間は 16 時 20 分までをお願いします。

(各グループでの熟議 25 分間)

樋口会長：熱心な御協議ありがとうございました。それでは、各グループで協議されたことの発表をお願いいたします。

グループ 1

- ・夢、希望をもってやり抜く力
- ・誰かの役に立っているという「自己有用感」を高める

グループ 2

- ・自己有用感、自己肯定感の向上
- ・自分の考えに固執、相手の意見を認められない

グループ 3

- ・「みんなの役に立ててうれしい」が低い…小野川小・二の宮小
- ・新しい項目「周りの人に、ありがとうと言われて嬉しいと思う」の追加
- ・新しい項目「自分がクラスの役に立てて嬉しいと思う」の追加
- ・失敗する機会を増やしてあげたいが、安全面を考えると保護者の理解も必要
- ・ルールメイキングの評価は高いが、保護者や児童の否定的回答 10%の理由も考えたい→もしかしたら「自分はルールメイキングで役に立てなかった」と思っているかもしれない
- ・「谷田部東中への進学を楽しみにしている」→谷田部東中に進学している児童と受験を考えている児童とが混在している部分をどのように評価するか

グループ 4

- ・自己有用感を測る評価項目はどれか、各学校で再確認する必要
- ・周囲の子ども目を意識する児童生徒が多い

グループ 5

- ・役に立っていることをどのように自覚させるか
- ・短期的な結果を求めるのではなく、長い目で教育活動を行う
- ・学校のために活動したいという地域の方を、いかに発掘していくか

坂教頭：貴重な御意見ありがとうございました。この結果を学園で協議して、学校評価に反映していきたいと思います。本日はありがとうございました。

樋口会長：発表者の皆さん、ファシリテーターの坂教頭先生ありがとうございました。今年度の評価項目づくりに生かしていただければと思います。最後に委員のみなさんから何かありますでしょうか。

宮田教頭：今後のコミュニティ・スクール協議会の予定です。第2回目は、令和6年10月4日(金)14:30から小野川小学校で行います。第3回目は、令和7年2月12日(水)14:30から東小学校で行います。

樋口会長：それでは、進行を事務局へお返しいたします。皆様、スムーズな運営に御協力いただきありがとうございました。

事務局：樋口会長、協議進行、ありがとうございました。本日の会議の内容は以上となります。

また、お手元に「つくば市コミュニティ・スクール評価ガイドライン」を配布させていただいております。こちらは、市教育委員よりコミュニティ・スクールの運営にあたり念頭においていただきたいと示されたものです。チェック項目について御確認いただければと思います。提出を求めるものではございません。折々において御活用いただければと思います。

なお、本日の会議の様子を、つくば市教育委員会ホームページにて写真を掲載させていただきたいと思います。委員の皆様、よろしいでしょうか。

(委員、承認)

以上をもちまして、令和6年度第1回洞峰学園コミュニティ・スクール協議会を閉会いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

令和6年度第1回洞峰学園コミュニティ・スクール協議会

日時：令和6年5月28日（火）

14：30～

場所：二の宮小学校 NINO ラボ室

次 第

1 開 会

2 授業参観

3 任命書交付

4 教育長挨拶

5 説明事項

つくば市のコミュニティ・スクールについて

6 会長・副会長の選出

7 協 議

(1) 学校運営の基本方針について

(2) 学校の教育活動や地域の活動事例の紹介

(3) 熟議 テーマ「学校評価をもとに学園の共通課題を考える」

(4) その他

・コミュニティ・スクール協議会の今後の予定について

8 閉 会

令和6年度 洞峰学園コミュニティ・スクール協議会
(第1回: 5月28日 火曜日) 受付名簿

番号	委嘱の区分	氏 名	よみがな	所属・役職	出欠席
1	(1) 地域住民	加藤 千里	かとう ちさと	元評議員	出席
2	(2) 児童・生徒の保護者	鈴木 宏之	すずき ひろゆき	二の宮小学校現PTA副会長	出席
3	(3) 地域学校協働活動推進員	木村 敦至	きむら あつし	R3谷田部東中学校PTA会長	欠席
4	(3) 地域学校協働活動推進員	柳沢 逸夫	やなぎさわ はやお	元学校評議員	出席
5	(3) 地域学校協働活動推進員	高野 和直	たかの かずなお	元学校評議員	出席
6	(3) 地域学校協働活動推進員	長久保 翠	ながくぼ みどり	元PTA会長	出席
7	(3) 地域学校協働活動推進員	村岡 敬子	むらおか けいこ	元評議員	出席
8	(3) 地域学校協働活動推進員	竹内 崇	たけうち たかし	元PTA会長	出席
9	(4) 学識経験者	樋口 直宏	ひぐち なおひろ	筑波大学	出席
10	(4) 学識経験者	伊藤 哲司	いとう てつじ	茨城大学 現PTA会長	出席
11	(5) 学校長	永井 英夫	ながい ひでお	谷田部東中学校 校長	出席
12	(5) 学校長	大高 純子	おおたか じゅんこ	小野川小学校 校長	出席
13	(5) 学校長	横田 康浩	よこた やすひろ	東小学校 校長	出席
14	(5) 学校長	高木 素子	たかぎ もとこ	二の宮小学校 校長	出席
15	(6) 教職員	坂 匡浩	さか まさひろ	谷田部東中学校 教頭	出席
16	(6) 教職員	清水 研志	しみず けんじ	谷田部東中学校 教務主任	出席
17	(6) 教職員	芳賀 千重	はが ちえ	小野川小学校 教頭	出席
18	(6) 教職員	村田 晴美	むらた はるみ	小野川小学校 教務主任	出席
19	(6) 教職員	坂入 敏江	さかいり としえ	東小学校 教頭	出席
20	(6) 教職員	井上 宏実	いのうえ ひろみ	東小学校 教務主任	出席
21	(6) 教職員	宮田 路子	みやた みちこ	二の宮小学校 教頭	出席
22	(6) 教職員	小松 勝之	こまつ かつゆき	二の宮小学校 教務主任	出席



令和6年度 つくば市立小野川小学校グランドデザイン

洞峰学園目標：夢や希望をもち、**未来に向かってたくましく生きる児童生徒の育成**
～ 「学びをつなぐ」×「人をつなぐ」小中一貫を通して ～

組織目標 **自ら考え 自ら行動し よりよい未来を目指せる人財育成**

- ◎児童が自ら学び、自己決定を重ね、達成感を感じる教育活動の展開
- ◎ワークライフバランスがとれるサステナブルな学校組織を目指した働き方

教育大綱に基づいた教育活動

- ◎教えから学びへ ～「受け身の学び」から「自ら学び表現できる」意識の醸成
話の意図を捉え、自分の意見をわかりやすく伝えることを重視した授業展開
自主学習の变革 ～自分に適した学習方法を開拓できる支援～
- ◎管理から自己決定へ ～児童の意見・アイデアの交流により向上を目指す学校・学級づくり
様々な意見を聞き、自分の考えを深めて新しい活動を生み出せる場の充実
- ◎認知能力偏重から非認知能力の再確認へ ～自分の得意や好きなことを見つけられるチャンスづくり
児童の好奇心とやってみたいことを尊重し、成功体験につなげる柔軟な機会づくり

コミュニティースクールとの連携

- ◎方向性の探索に向けた地域との対話 ◎教育課程の整理と発信
- やりがいと働き方のコラボレーション
- ◎チームワークコミュニケーションの向上





令和6年度 洞峰学園つくば市立東小学校グランドデザイン



洞峰学園教育目標：夢や希望をもち、未来に向かってたくましく生きる児童・生徒の育成

本県教育の目標

- ひとりひとりの能力を開発し豊かな人間性をつちかう
- じょうぶな身体をつくりたくましい心を養う
- 郷土を愛し協力しあう心を育てる

つくば洞峰学園の目指す児童・生徒像

- ・自ら考え、自ら学ぶ児童・生徒
- ・心豊かで社会力のある児童・生徒
- ・心身ともにたくましく健康な児童・生徒

つくば市 目指す学園・学校

- みんなが幸せを実感できる学園・学校（自己実現できる学校・みんなが支え合い、みんなが生き生きした学校）

校訓

自ら学び
心豊かに
たくましく

9年間の学びの連続性を大切にした教育の実践
・楽しく感動のある教育の実践
・地域に根ざした教育の推進

学校の教育目標 自ら学び、心豊かに、たくましく生きる児童の育成

学校の組織目標 1. 特別活動で協働して実践する力を育成する学年・学級経営
2. 意識改革と業務改善で進める働き方改革・45時間0（ゼロ）

研究テーマ 生活をよりよくするために協働して実践する力を育成する学級集団の育成
～傾聴する活動の工夫を通して～

自らの学び

【重点目標】教えから学びへ
～個別最適な学びと協働的な学びの実現～

1. 主体的・対話的で深い学びの実現
○自ら課題を設定し、他者と協働するなどして課題を解決する学習の充実に向けた指導計画の工夫
○学習意欲を引き出す課題設定の工夫や、考えを広げたり深めたりする発問の工夫
○習得した概念や考え方を活用し、新たな問いを見いだして解決する授業の工夫
2. 基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力、判断力、表現力等を育む授業の工夫
○知識・技能の確実な習得を図るための体系的な学習や繰り返し学習の充実
○自分の考えをもち、他者の考えとの共通点や相違点を捉え、考えを深めていく活動の工夫
3. 個に応じた多様な指導方法及び指導体制の工夫改善
○ティーム・ティーチングや習熟の程度に応じた学習、少人数指導の充実
○効果的な活用場面や方法を想定したGIGAスクール端末の活用
○専門性を生かした教科担任制
4. どの子も活かし、どの子も伸ばす教育の充実
○ユニバーサルデザインの視点を活かした授業づくり
【授業改善：教えから学びへ3つのポイント】
(1) 自ら学ぶ意欲を高める
～学習課題へのこだわり～
・試行錯誤できる課題の設定
・解決の見通しをもたせる
(2) 学び合うために
～対話へのしかけ～
・自分の意見をしっかりと述べる
・教師が対話を生みだすように発問する
・お互いの意見を共有するための指導、手立て
(3) 学びを自覚するために（メタ認知）
～振り返りの工夫～
・時間を確保する
・視点を与える
～学びが連続する家庭学習～
・自分が分からない所、できない所を把握し、それを解決できる自律的な学習者を育てる

ゆたかな心

【重点目標】管理から自己決定へ
～自分で考え、判断し、行動するために～

1. みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動の充実
○自分たちで考え、判断し、行動する活動の重視
○発達段階に応じた当番活動と係活動の指導と評価
○いじめ等の未然防止につながる自主的な取組の推進
○異年齢集団の活動の日常化（登下校、清掃活動）
2. どの子も活かし、どの子も伸ばす教育の充実
○ユニバーサルデザインの考えで進める学級経営
【学年・学級経営の充実：管理から自己決定へ2つのポイント】
(1) 学級経営で協働して実践する力を育む
～互いの価値観を尊重し、協調しながら解決策をみつける～
・「みんなが楽しい」の理解と共有
・相手の考えを理解するための傾聴の推進
(2) 特別活動で協働して実践する力を育む
～対話を通して、多様な自己決定場面の設定～
・対話を通して納得感をつくるプロセスの重視
・係活動の充実 指導と評価の視点：
「進んで」「協力して」「工夫して」「責任をもって」
3. 道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実
○「考え、議論する道徳」の推進
【指導方法の工夫7つの視点】
(1) 書く活動の工夫 (2) 教材提示の工夫
(3) 話し合い方法の工夫 (4) 表現活動の工夫
(5) 板書の工夫 (6) 説話の工夫
(7) 発問の工夫
○感謝と思いやりの心を育てる人権、福祉体験活動の推進
4. 時代の変化やグローバル社会に対応できる教育の推進
○「いばらき キャリア・パスポート」を活用したキャリア教育の推進
○自国文化や異文化の理解を深める国際教育の充実
○SDGs（持続可能な開発目標）時代におけるESD（持続可能な開発のための教育）の推進
○家庭との連携による情報モラル教育の推進

たくましさ

【重点目標】実践力へ
～健康で安全な生活を送るために～

1. 体力の向上
＜体育の時間に＞
○授業の導入におけるサーキットトレーニングの実施
○体力向上タイムの設定
＜昼休みに＞
○スポーツチャレンジの活用
○自発性を促す運動環境整備
・運動（遊び）の場の設定
・運動（遊び）道具の開発
・運動（遊び）の提供
＜家庭で＞
○動画を活用して
○体づくり運動（実生活に生かす運動）の計画・実践
2. 健康教育の充実
○学校栄養職員、養護教諭・担任との連携による食育及び保健指導
○「早寝早起き朝ごはん」運動の推進（毎月19日からの一週間を推進強化週間）
○飲酒・喫煙・薬物乱用防止・性・がんに関する指導の充実（外部関係の積極的な活用）
3. 安全教育の充実 ～危険予測能力・危険回避能力の育成
○安全について児童が自ら考える場を設定
○保健学習や学級指導を充実

安全・安心な学校づくり

1. 食物アレルギー対応力の向上
2. AED及び心肺蘇生法の定期的な研修
3. 地域との連携による学校防災連絡会議及び学校防災推進事業の実施

教師力・学校力の向上

1. 「教員の資質の向上に関する指標」を基にしたキャリアステージに応じた人材育成
2. GIGAスクール端末の活用推進
3. 教員評価を活用した人材育成並びに学校活性化
4. 教員の業務量の適切な管理（働き方改革）の推進
5. 教育公務員としての自覚と服務規律の確保

地域とともにある学校づくり

1. 家庭・地域との連携・協働「社会に開かれた教育課程」の推進
○グランドデザインの周知
○研究機関やつくばサイエンスQによる「わくわくドキドキ出前授業」の実施
○学校支援ボランティア（学習活動支援、環境整備支援、安全確保／保健衛生、その他の活用推進
○学校広報の充実
・グランドデザインに基づく教育活動を紹介する学校だより
・教育活動の事実並びにねらいを明記したホームページによる情報発信の充実

・グランドデザインに基づく教育活動を展開する学校公開

○説明責任と学校・家庭・地域の連携教育による学校づくりを進めるための学校評価の活用

2. 保幼小連携協議会の定期開催並びに東幼稚園との交流・連携の推進
3. 地域との連携による学校防災連絡会議の開催並びに学校防災推進事業の実施
4. 洞峰学園コミュニティ・スクールにおける「地域学校協働活動」の推進



2024 洞峰学園 つくば市立谷田部東中学校 グランドデザイン



【洞峰学園教育目標】
夢や希望をもち、未来に向かってたくましく生きる児童・生徒の育成
～「学びをつなぐ」×「人をつなぐ」小中一貫教育を通して～

＜本県教育目標＞
ひとりひとりの能力を開発
豊かな人間性をつちかう
じょうぶな身体をつくり
たくましい心を養う
郷土を愛し、
協力しあう心を育てる

【学校教育目標】
志をもち、心豊かにたくましく生きる生徒の育成
～未来を志向し、「夢の実現」に向けた小中一貫教育を通して～

＜つくば市の目指す
学園・学校像
みんなが幸せを実感
できる学園・学校
～自己実現できる学校・
みんなで支え合い、みんな
が生き生きとした学校～

【学校経営の方針】
共に学び、共に磨き、共に鍛え、共に育つ学校づくり
～非認知能力の育成を通して～

学 校 像

- 生徒が「夢に」向かって輝く学校
- 教師が「やりがい」をもてる学校
- 保護者や地域から「信頼」される学校

生 徒 像

【立志・共創・躍動】

- ◎自分の夢や可能性に意欲的に挑む生徒
- ◎心豊かに誠実に行動し、共に未来を創造できる生徒
- ◎健康で活力に満ち、いきいきと活動する生徒

教 師 像

- 熱意と愛情をもち生徒に寄り添う教師
- 指導力と実践力のある教師
- 未来を見つめ、改革意欲のある教師

◆保護者・地域の期待 ◆生徒の願い

- 安全・安心
- 学力向上
- 落ち着いた学校生活
- 進路実現
- 地域貢献
- 充実した学校生活
- 分かる授業
- 学びたい授業
- 心を許せる仲間
- 居場所のある学級
- 心を許せる仲間

組織目標

- 未来を志向し、「能動的な学び」の具現化を図る授業づくり
- 一人一人が「自己決定」し、夢の実現に挑める集団づくり

2024教育の重点

- ◎「対話」を核とした教育活動
- ◎「谷東ログ」を活用した非認知能力の育成
～自分と向き合い、他者とながら、自分を高める～

【スクール スローガン】

輝く未来 きらめく明日への挑戦
Active 谷東!

「未来型学力」プロジェクト

【重点目標】

- *「能動的な学び」への具現化を図る授業づくり
- ◆探究的・協働的な学びの実現に向けた授業づくり
- ・知的好奇心を高める課題の工夫
- ・インプット ⇒ 協働 ⇒ アウトプット ⇒ 振り返り を重視した PBL 学習の充実
- ・社会を意識する探究タイム（特設学習）
- ・地域資源を活用した魅力ある授業
- ◆ ICT 教育の推進
- ・思考を広げるための ICT の利活用
- ◆つくばスタイル科を核とした教科横断型の学習や STEAM 教育の推進
- ◆「教育支援計画」を活用した「切れ目のない」特別支援教育の充実

【数値目標◎80%以上○70%以上】

- ◎進んで授業に取り組み、自分の考えをもつ
- ◎友達との学び合いを課題解決に生かす
- 授業で「アウトプット」を大切にしている

「豊かさ・しなやかさ」プロジェクト

【重点目標】

- *互いを尊重し合える人間関係の醸成
- *「自己決定」できる集団づくり
- ◆9年間のつながりを意識した教育活動
- ・「夢を実現」する系統的なキャリア教育
- ◆自治能力の育成を目指す生徒会活動
- ・「R 研修会」を核とした自治的行事
- ・有志のよる生徒会活動「輝き隊」
- ・いじめゼロフォーラムの実施
- ◆柔軟な指導体制による道徳教育
- ◆共に創り上げる話し合い活動の充実
- ◆外部人材を活用した体験活動
- ◆5つの行動目標を生かした自主性・自律性の育成
- ◆「折れない心」の育成と組織を活かした教育相談体制の確立

【数値目標◎80%以上○70%以上】

- 「夢の実現」に挑もうとしている
- 自分には良いところがあると思う
- ◎相手の気持ちを考えて行動できる

「たくましさ」プロジェクト

【重点目標】

- *健康で安全な生活を送る体力づくり
- *安全・安心な環境づくり
- ◆体力向上プログラムの実施
- ・目的意識を持たせた体育の授業、部活動の充実
- ◆地域と学校の協働による文化・スポーツ活動（DCAA）
- ◆外部人材や家庭と連携した健康教育プログラムの充実
- ◆系統的な自己管理能力の育成
- ◆危機意識に基づくコロナ感染症対策
- ◆事故の未然防止と組織での迅速な初期対応
- ◆保護者・地域と連携した防災教育、安全教育、情報モラル教育等の充実

【数値目標◎80%以上△60%以上】

- ◎自分の健康や安全を考えて行動できる
- ◎心身ともに成長していると思う
- △体力テスト A+B

- 地域とともに歩む学校づくり
- ・地域、保護者との協働体制の構築（CS の導入）
- ・積極的な情報発信と学校評価の活用
- ・外部人材を活用した補充学習
- 大学・研究機関・企業との連携

地域とともにある学校づくり



- 教職員の資質・能力の向上
- 「与えられる研修」⇒「求める研修」へ
- ・「学び連続性」を保障する学園研修
- ・業務の効率化を図る学校のデジタル化
- ・教員評価を生かした資質・能力の向上

働き方改革の推進

- 【数値目標】超過勤務4.5時間/月以内～キャップ・カット・効率化～
- ・部活動地域連携事業
- ・末尾1hの有給休暇
- ・日課の工夫

コンプライアンス意識の醸成

- 【数値目標】不祥事「ゼロ」～自分たちの職場から不祥事を出さない～
- ・当事者意識を高める研修
- ・教員評価の活用
- ・組織的な相談体制



令和6年度 洞峰学園二の宮小学校グランドデザイン

洞峰学園教育目標：夢や希望を持ち、未来に向かってたくましく生きる児童・生徒の育成



本県教育目標
 ○ひとりひとりの能力を開発し、豊かな人間性をつちかう
 ○じょうぶな身体をつくりたくましい心を養う
 ○郷土を愛し、協力する心を育てる

洞峰学園の目指す児童・生徒像		
○自ら考え、自ら学ぶ児童・生徒 ○心豊かで社会力のある、たくましい児童・生徒 ○心身ともにたくましく健康な児童・生徒		
1～4年	5～7年	8～9年
身近な人と関わりながら、学習習慣を身に付け、学ぶ楽しさを味わう児童	地域の人と関わりながら、学んだことを生活に生かす児童・生徒	社会と関わりながら、主体的に学び、行動できる生徒

つくば市の目指す学園・学校像
 みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園
 ～自己実現できる学校・みんなで支え合い、みんなが生き生きした学校～

組織目標：笑顔と元気、対話で学ぶ楽しい学校



研修テーマ 他者とつながりながら夢中になって学ぶ児童の育成
 ～つながるための単元構成・対話の工夫を通して～

学びを創り出す児童	自ら関わり合う児童	学び続ける教師
単元構成と授業デザインの工夫 ○「なぜだろう？」から学べる授業 ○自由な学び方で学べる授業 ○教科を横断して学べる授業 ○家庭学習とつながる授業 ○「子供へのすべての言葉かけを肯定的なものに」 ○自己と向き合う体育の充実 自己の成長を実感できる授業 単元の最初に比べて学習が面白くなった +10%	対話とルールメイキング話の充実 ○一人一人の考えや、方法から新しい考えを生み出す対話 ○日常の課題を見出し解決する力 ○係・委員会・実行委員会を中心にした居心地の良い学校・学級経営 ○遊びを通じた仲間作り・体力作り ○学級遊び・ふれあい遊びの充実 周りの友達の考えもよく聞きながら答えを考えましたか +10%	授業づくりを楽しむチーム ○キャリアステージを高める研修 ○世代をつなぐミドルリーダー育成 ○全職員を生かすOJT ○意見を生かした参画意識の向上 ○ICT活用指導力の向上 ○児童理解力と学級経営力の向上 ○心身の健康を高める協働性と働き方改革の推進 ○子供と語り遊ぶ時間の確保 私は児童が関わり合いながら課題解決に向かうように工夫している100%

キャッチフレーズ「に・の・み・や」で育む非認知能力

意欲・向上心 にこにこ 自分も友だちも、笑顔になれる学校

自信・自尊感情・楽観性 のびのび やりたいことができる学校

共感・社交・コミュニケーション みとめあい、みがきあい 自分と友だちのよさを生かして、協力できる学校

自制心・忍耐力・回復力 やりぬく心 さいごまで 目標を決めて、仲間とともにやりぬける学校

学校・地域・保護者とともにつくる安心・安全な学校

未来社会を生きる資質能力の育成

○リアル社会とデジタル社会に必要なソーシャルスキルの獲得

・児童と保護者、教師それぞれに必要な情報モラル教育

○多様な他者との理解と協働

・国際理解と外国語教育の推進（GT活用）
 保護者による英語読み聞かせ

○危機回避能力の育成

・避難訓練・安全教育の充実

地域や社会につながる開かれた学校

○コミュニティ・スクールでの協働思考

○保護者・地域ボランティア・GTの活用・STEAM教育の充実

子供を中心としたチーム学校での対応

○児童の特性や家庭の課題を早期に把握し、社会的自立を目指した適切な対応

○学校のプラットフォームとしての役割を推進するための、SC、SSW、関係専門機関等との連携